

1. はじめに

■神奈川県道路を取りまく背景

- 神奈川県は、日本を代表する港湾を有する横浜市、産業技術が集積する川崎市を擁しており、人・モノ・車が集中しています。一方で、箱根、丹沢や湘南海岸などの自然環境や、鎌倉などにおける固有の歴史、文化を有しており、日本の縮図的な特徴を持ちあわせているといえます。このため、通勤、通学などの日常生活はもとより、物流を主とする産業活動や、観光等を目的とした移動交通まで、幅広い活動が道路交通に大きく依存しています。
- しかしながら、県内の道路の現状を見ると、主要な交差点を中心に、慢性的な交通渋滞が発生しており、輸送の効率性や移動の快適性などを低下させるとともに、交通事故の多発や大気汚染等環境への負荷といった問題が発生しています。
- また、これまでの道路行政は、主に自動車を意識したものであり、これからは、自転車、歩行者等の視点からみた展開も重要となっています。

■成果志向への転換

今後の道路行政においては、「道路行政マネジメント研究会※」が公表した提言を踏まえ、「**毎年度、成果目標を設定し、この達成度を把握・評価**しながら毎年度のマネジメントサイクルを確立すること」を目標とします。

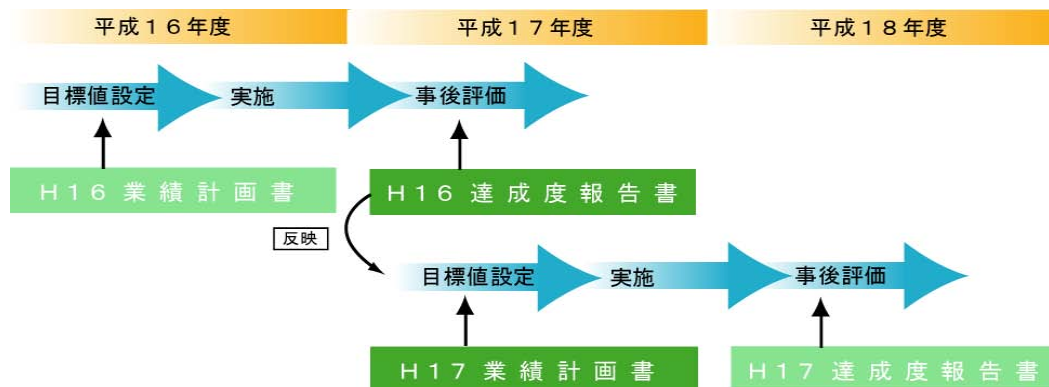
具体的には、道路施策・事業の必要性や妥当性を、数値による目に見える形の**成果指標**を用いた業績評価を行うことで、わかりやすく説明します。また、その結果を公表するとともに、今後の事業計画に反映していく新たな道路行政マネジメントシステムを導入していきます。

※道路行政マネジメント研究会：成果志向の新たな道路行政マネジメントのあり方について検討するために、平成15年3月に設置された国土交通省道路局長の私的研究会。

■「平成16年度達成度報告書/平成17年度業績計画書」の策定

<策定の目標>

- 神奈川県域においては、道路整備における事業成果の考え方や具体的な指標などについて検討し、神奈川県道路協議会（神奈川県、横浜市、川崎市、国土交通省、日本道路公団※、首都高速道路公団※）において、「平成16年度神奈川のみちづくり業績計画書」を平成16年12月に策定しました。
- 今年度は、神奈川県域において、事前に数値目標を明確に打ち出し、事後に達成度を検証し、評価結果を次年度の行政運営に反映するという「マネジメント・サイクル」が一巡するはじめての年度です。
- 「平成16年度神奈川のみちづくり業績計画書」の中で設定した平成16年度目標値と平成16年度実績値を比較・評価したものが「平成16年度神奈川のみちづくり達成度報告書」です。
- 平成16年度達成度報告書における今後の課題を踏まえ、指標と目標を再設定して取りまとめたものが「平成17年度神奈川のみちづくり業績計画書」です。



※平成17年10月1日、東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、首都高速道路株式会社が設立されました。